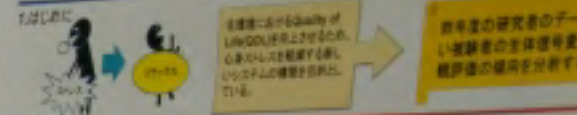


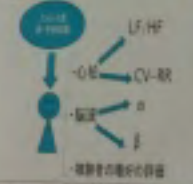
1 快・不快刺激の対比提示における生体信号変化と主観評価の傾向分析について

Analysis of the Tendency between the Change of the Subjective Evaluation for the Pleasant and the Unpleasant Stimuli

サレジオ工業高等専門学校 緑川 小麻 菊太 坂江 小麻 貴也
生体信号研究室 指導教員 森 孝男 教授



2. 研究概要



研究目的
本研究、実験室に於いて、快・不快刺激(音)の提示をもち、その時の心拍からLF/HF(自律神経活動)とCV-RM(自律神経活動)を抽出し、心拍から抽出した自律神経活動と主観的評価との関係性を分析し、その傾向を明らかにする。

研究の意義
本研究は、実験室に於いて、快・不快刺激をもち、その時の心拍から抽出した自律神経活動と主観的評価との関係性を分析し、その傾向を明らかにする。

刺激	主観的評価	LF/HF	CV-RM
快刺激	高	高	低
不快刺激	低	低	高

結果
本研究の結果、快・不快刺激をもち、その時の心拍から抽出した自律神経活動と主観的評価との関係性を分析し、その傾向を明らかにする。

